



# 奈良県内経済情勢報告

(令和6年4月判断)

## 1. 総論

### 【総括判断】

「県内経済は、持ち直している」

項目	前回 (6年1月判断)	今回 (6年4月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和6年4月判断は、前回6年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

### (判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

### 【各項目の判断】

項目	前回 (6年1月判断)	今回 (6年4月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→

### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇や人手不足の影響等に十分注意する必要がある。また、一部自動車メーカーによる生産再開の状況、海外経済の動向などに留意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

- ・百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向の高まりによる購入点数の減少などにより、足踏みの状況にある。
- ・コンビニエンスストア販売は、インバウンドなどの需要に加え、顧客の購買意欲に大きな低下は見られず、堅調に推移している。
- ・ドラッグストア販売は、インバウンドの増加などにより、医薬品を中心に、好調に推移している。
- ・ホームセンター販売は、物価上昇に伴う購買意欲の低下、天候不順に伴う園芸用品などへの支出の低下により、低調に推移している。
- ・家電大型専門店販売は、足下で新生活需要がみられるものの、物価上昇に伴う購買意欲の減退などにより、低調に推移している。
- ・乗用車新車登録届出台数は、普通車で前年を上回っているものの、小型車・軽自動車では前年を下回っており、全体では前年を下回っている。
- ・観光動向は、インバウンドを中心に、回復している。

#### (主なヒアリング結果)

- 値上げにより商品単価は上昇しているが、必要性の低い商品の購入を控えるほか、より安いものを求めて近隣スーパーとの使い分けを意識する利用者が増えていることから、買い上げ点数が減少して客単価が低下している。  
(百貨店・スーパー)
- 衣料品や生鮮食品などが堅調に推移したものの、天候の影響を受け客数は伸び悩んだ。  
(百貨店・スーパー)
- 販売価格が上昇しているが、日常使いのお客様が多いこともあり、購買意欲の低下は感じられない。  
(コンビニエンスストア)
- インバウンドは風邪薬や湿布などの医薬品を中心に売行きが好調である。また、国内客も飲食物品に加え、医薬品の売行きが良い。  
(ドラッグストア)
- 物価上昇の影響により、必要最低限の商品のみを購入する意識が強まっているほか、天候不順により園芸用品や冬物商品が振るわず売上は前年を下回っている。  
(ホームセンター)
- 引き続きの物価上昇に伴い、価格の安い型落ちの商品を好まれる傾向や、買い替えサイクルが長期化していることなどから、売上は減少している。  
(家電量販店)
- 購買意欲に大きな低下は見られないが、自動車メーカーによる一部車種の生産及び出荷が停止したことから、売上は前年を下回っている。  
(自動車販売店)
- 外国人観光客は日帰り客・宿泊客ともに増加しており、コロナ禍以前の状況まで回復している。大半が奈良公園周辺を訪れているほか、一部は吉野にも訪れている。国内観光客は団体の宿泊と宴会が戻らないものの、外国人観光客の増加が、それを埋めている。  
(観光関係団体)
- 1～2月は低調に推移したが、足下の3月以降、国内観光客が好調であるほか、インバウンドも堅調に推移しており、レストラン・宴会部門を含む全体の売上は前年を上回っている。  
(宿泊)

## ■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数は、「輸送機械」「繊維」などが低下しているものの、「生産用機械」「化学」などが上昇している。

なお、企業からは、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響を受けているとの声が聞かれる一方、半導体関連等において需要が増加しているとの声が聞かれている。

以上のことから、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 一部自動車メーカーの生産・出荷停止等の影響で、自動車部品の生産数量は前年同期を大幅に下回っている。なお、足下では自動車メーカーの生産が概ね再開されており、4月末には当初計画通りの生産数量にまで回復する見通し。  
(輸送機械)
- 繊維商品(靴下)は、物価高騰の影響による消費不振や安価な海外製品への置き換えが進んでおり、アパレルなどのOEM製造では需要が減少し続けている。  
(繊維)
- 食品値上げによる消費者の節約志向を背景とした食品容器の大型化などにより、生産数量は前年同期比で3~5%程度減少している。  
(その他製造)
- 半導体部門において、台湾メーカーを中心に納期先延ばしの相談があったものの、新たな商談が動きだすなど前期と比較し、需要は増加傾向。また、電子部品部門でも足下の受注が増加している。  
(生産用機械)
- 前期と比較し、自動車向け部品は需要が減少しているものの、工作機械向け部品は一部在庫調整が終わり需要は回復傾向にある。  
(汎用機械)
- 高機能かつ省力化に資する製品が主力であることから、原材料価格の上昇分は販売価格へ転嫁できており、今期の販売額は最高益だった2023年と同水準。また、今後も好調に推移する見通し。  
(生産用機械)

## ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率でみると、引き続き求人が求職を上回っており、持ち直しつつある。また、法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIについて、全産業の現状判断は、令和3年4-6期調査以降12期連続の「不足気味」超となっていることなどから、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 育児や介護で深夜早朝勤務が難しい人向けに、昼間勤務の時給制正社員の採用を進めており、求人を出せば一定の応募がある状況。  
(陸運)
- 社員のモチベーション向上及び離職防止のため、2023年度、2024年度ともに5%強の賃上げを実施した。  
(輸送機械)
- レジ担当の人手が足りておらず、派遣会社に要請しても、派遣までかなり時間を要している状況。(百貨店・スーパー)
- 専門業者を介して募集しても、即戦力となる人材が市場に少ないため、希望人数の採用には至らない。外国人労働者は、円安で母国への仕送りが目減りすることを理由に一部帰国してしまった。  
(建設)
- 現在抱えている従業員と新規採用者の両方の賃上げに対応できないことなどから、求人を抑える企業があり、新規求人数の減少が続いている。なお、原材料価格高騰分の価格転嫁が一定進んだ結果、求人募集を再開する企業がみられるようになったほか、観光客の増加や歓送迎会需要の高まりなどから、飲食サービス業の求人が増加している。  
(公的機関)

■ **設備投資** 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和6年1~3月期

5年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業で前年度を上回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を下回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和6年1~3月期

5年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業で増益見込みとなっているものの、非製造業で減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 新設住宅着工戸数で見ると、持家・分譲において前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

■ **公共事業** 前払金保証請負金額(累計)で見ると、国、独立行政法人、県、市町村で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ **企業倒産** 倒産件数は足下で前年を上回っている。負債総額は前年を下回っている。

■ **企業の景況感** 法人企業景気予測調査(令和6年1~3月期調査)の景況判断BSIで見ると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては、「上昇」超の見通しとなっている。

〔連絡・問い合わせ先〕

近畿財務局 奈良財務事務所 財務課

TEL 0742-27-3162 (直通)